

科目分類	専門職の教育			開講学科	医療情報学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
15109	2	後期	選択	2	60
授業科目名 (英文)	国際疾病分類法演習Ⅱ (ICD-10 Coding exercise Ⅱ)				
担当教員名	奥村 通子				
授業の概要及び到達目標					
<p>臨床医学各論で学んだことを基礎にして、国際疾病分類（ICD-10）の仕組みを理解し、使用に際しての各章の特徴や留意事項を理解し、各章ごとのコーディングの技術を習得し、活用能力の向上を目指す。また、腫瘍の分類（ICD-O、M コード）や手術および処置の医療行為の抽出、その他の主要病態・原死因のコーディングのコーディング演習も同時に実施し、より正確なコーディングの技術を取得する。更に、退院時要約、死亡診断書からの情報を用いた演習も行ない、傷病名についての応用的なコーディング能力を向上させる。</p> <p>①各章の構成及び各疾患の特徴を習得する。 ②診療記録を正しく読み取ることができる技術習得する。 ③国際疾病分類の仕組みを理解する。 ④国際疾病分類の「内容例表」「索引表」のルールを理解して適切な疾病分類ができる。 ⑤傷病名や医療行為を抽出し、ルールに則って正確な疾病コーディングを行うことができる。 ⑥第1巻のみで、正確な疾病コーディングを導きだせる技術を習得する。 ⑦特異的な傷病名、主要病態・原死因のコーディング技術を習得する。 ⑧病態の因果関係を考慮し、原死因のルールに則って適正な修正を行うことができる。</p>					
準備学習等					
<p>○ テキスト各章のコーディング演習するためには、解剖、疾病を十分に理解しないと、適切な分類を行うことができないので予習が必要である。</p> <p>○ 事前準備学習 診療情報管理士教育問題集の各章を解答してみること。</p> <p>○ 小テストで誤答したものは、必ず30分復習し、ICD-10で再確認し、弱点を克服することが診療情報管理士認定試験合格に繋がる。</p>					
第 1 回	国際疾病分類の基本	12-1-1	12-1-2	12-1-3	12-1-4
第 2 回	国際疾病分類の基本	12-1-5	12-1-6	12-1-7	12-1-8 12-1-9
第 3 回	コーディング演習 1	(第 I 章：感染症・寄生虫症) 12-2-1			
第 4 回	コーディング演習 2	(第 III 章：血液・造血器・免疫機構の障害、第 IV 章：内分泌・栄養・代謝) 12-2-3 12-2-4			
第 5 回	コーディング演習 3	(第 V 章：精神・行動の障害、第 VI 章：神経系の疾患、第 VII 章：眼・付属器の疾患) 12-2-5 12-2-6 12-2-7			
第 6 回	コーディング演習 4	"			
第 7 回	コーディング演習 5	(第 VIII 章：耳・乳様突起の疾患、第 IX 章：循環器系の疾患、第 X 章：呼吸器系の疾患) 12-2-8 12-2-9 12-2-10			
第 8 回	コーディング演習 6	"			

第 9 回	コーディング演習 7 (第 X I 章: 消化器系の疾患、第 X II 章: 皮膚・皮下組織の疾患、第 X III 章: 筋骨格系・結合組織)	12-2-11	12-2-12	12-2-13
第 10.11 回	コーディング演習 8 //			
第 12 回	コーディング演習 9 (第 X IV 章: 尿路性器系の疾患、第 X VII 章: 先天奇形・変形・染色体異)	12-2-14	12-2-17	
第 13 回	コーディング演習 10 (// 第 X VIII 章: 症状・徴候・異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの)	12-2-18		
第 14 回	コーディング演習 11 (第 II 章: 新生物)	12-2-2		
第 15 回	コーディング演習 12 //			
第 16 回	コーディング演習 13 (第 X V 章: : 妊娠・分娩・産褥)	12-2-15		
第 17 回	コーディング演習 14 (第 X VI 章: 周産期に発生した病態)	12-2-16		
第 18 回	コーディング演習 15 (第 X IX 章: 損傷・中毒・その他の外因の影響)			
第 19 回	コーディング演習 16 (第 X X 章: 傷病および死亡の外因、第 X X I 章: 健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用)	12-2-20	12-2-21	
※テキスト各章の第 1 巻のみの使用で疾病やサマリ問題のコード化、原死因等を学習する。				
第 20 回	コーディング演習 17 (第 I 章、第 III 章、第 IV 章)	12-2-1	12-2-3	
第 21 回	コーディング演習 18 (第 V 章、第 VI 章、第 VII 章)	12-2-5	12-2-6	12-2-7
第 22 回	コーディング演習 19 (第 VIII 章、第 IX 章、第 X 章)	12-2-8	12-2-9	12-2-10
第 23 回	コーディング演習 20 (第 X I 章、第 X II 章、第 X III 章)	12-2-11	12-2-12	12-2-13
第 24 回	コーディング演習 21 (第 X IV 章、第 X VII 章、第 X VIII 章)	12-2-14	12-2-17	12-2-18
第 25 回	コーディング演習 22 (第 X X I 章、第 II 章)	12-2-21	12-2-2	
第 26 回	コーディング演習 23 (第 X V 章、第 X VI 章)	12-2-15	12-2-16	
第 27 回	コーディング演習 24 (第 X IX 章、第 X X 章)	12-2-19	12-2-20	
第 28 回	コーディング演習 25 (原死因コーディング)	12-2-22		
第 29 回	コーディング演習 26 (主要病態の選択、全体の補足)			
第 30 回	コーディング演習 27 (全体の補足)			
成績評価の方法	期末試験 80%、各章の小テスト 15%、および授業態度 5%より評価する。			
テキスト	<p>①「診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅳ 専門・8 章～12 章」第 9 版 2017.7, 一般社団法人日本病院会、(株)日本病院共済会。</p> <p>②第 1 巻 平成 28.5.25 第 1 版第 1 刷「疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10 (2013 年版) 準拠」厚生労働省大臣官房統計情報部編, 一般財団法人厚生労働統計協会 ISBN978-4-87511-674-5。</p> <p>②第 3 巻 平成 28 年 9.20 第 1 版第 1 刷「疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10 準拠」厚生労働省大臣官房統計情報部, 一般財団法人厚生労働統計協会 ISBN978-4-87511-676-9。</p> <p>③「診療情報管理士教育問題集 2017 専門・8 章～12 章」2017 年 5.26 初版 一般社団法人日本病院会 診療情報管理士教育委員会, (株)日本病院共済会</p> <p>④必要に応じてプリントを配布する。</p>			
参考図書	<p>①山口和克：新版病気の地図帳、講談社、2000、ISBN 978-4062085717</p> <p>②佐藤達夫監修：新版からだの地図帳、講談社、2013、ISBN978-4062610254</p> <p>③澤田康文、伊賀立二、小瀧一監修：くすりの地図帳、講談社、2007、ISBN978-4062064022</p> <p>④第 2 巻 平成 28 年 5.20 第 1 版第 1 刷「疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10 (2013 年版) 準拠」厚生労働省大臣官房統計情報部、一般財団法人厚生労働省統計協会、ISBN978-4-87511-675-2</p>			

	<p>⑤鳥羽克子編：ICD コーディングトレーニング第2版4刷、医学書院、2013、ISBN978-4-260-00219-6</p> <p>⑥医療経営情報研究所編：コーディング寺子屋第1版、産労総合研究所出版部経営書院、2010、ISBN978-4-86326-070-2</p>
備 考	<p>①授業開始後の入室は原則禁止する。20分以上の遅刻は欠席とする。</p> <p>②講義には必ず、テキストと診療情報管理士問題集、ICD-10 第1巻、第3巻を持参する。持参しない場合は欠席扱いとする。</p> <p>③臨床医学各論と、国際疾病分類法演習の各章と合わせて、解剖部位や疾病を理解して、毎回疾病コーディング演習をする。</p> <p>④毎回、各章の復習し、各章ごとの診療情報管理士教育問題集の演習をしておくこと。コーディングトレーニングをすることが実力を付ける第1歩になる。</p> <p>オフィスアワー：授業終了後、教室で質問を受け付ける。卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</p>
授 業 計 画	
<p>下記の授業計画にて実施するが、理解度に応じて演習内容が前後することもある。</p> <p>※ テキスト各章の特徴と例題の疾病構造を理解し、教育問題集等から学習する。適宜、必要な練習問題も配布する。</p> <p>第 1 回 国際疾病分類の基本 ICD-10（2013年度版）準拠の概説、「国際疾病分類（ICD）」編さんの基準とその特徴「内容例示表」と「索引表」の使用方法</p> <p>第 2 回 複数病態分類・複合病態分類・二重分類、「内容例示表」及び「索引表」で用いられている表示記号と符号、用語の定義・索引表の構造・傷病名の構成、傷病名のコード索引方法の開設、コーディング支援ソフトウェアの利用</p> <p>第 3 回 各章の疾病分類体系の理解、コーディング演習 1（第 I 章：感染症・寄生虫症）</p> <p>第 4 回 コーディング演習 2（第 III 章：血液・造血器・免疫機構の障害、第 IV 章：内分泌・栄養・代謝）</p> <p>第 5 回 コーディング演習 3（第 V 章：精神・行動の障害、第 VI 章：神経系の疾患、第 VII 章：眼・付属器の疾患）</p> <p>第 6 回 コーディング演習 4 //</p> <p>第 7 回 コーディング演習 5（第 VIII 章：耳・乳様突起の疾患、第 IX 章：循環器系の疾患、第 X 章：呼吸器系の疾患）</p> <p>第 8 回 コーディング演習 6 //</p> <p>第 9 回 コーディング演習 7（第 X I 章：消化器系の疾患、第 X II 章：皮膚・皮下組織の疾患、第 X III 章：筋骨格系・結合組織）</p> <p>第 10. 11 回 コーディング演習 8 //</p> <p>第 12 回 コーディング演習 9（第 X IV 章：尿路性器系の疾患、第 X VII 章：先天奇形・変形・染色体異）</p> <p>第 13 回 コーディング演習 10（// 第 X VIII 章：症状・徴候・異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの）</p> <p>第 14 回 コーディング演習 11（第 II 章：新生物）</p> <p>第 15 回 コーディング演習 12 //</p> <p>第 16 回 コーディング演習 13（第 X V 章：妊娠・分娩・産褥）</p> <p>第 17 回 コーディング演習 14（第 X VI 章 周産期に発生した病態）</p> <p>第 18 回 コーディング演習 15（第 X IX 章：損傷・中毒・その他の外因の影響）</p>	

第 19 回 コーディング演習 16 (第 XX 章：傷病および死亡の外因、第 XX I 章：健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用)

※テキスト各章の第 1 巻のみの使用で疾病やサマリ問題のコード化、原死因等を学習する。

第 20 回 コーディング演習 17 (第 I 章、第 III 章、第 IV 章)

第 21 回 コーディング演習 18 (第 V 章、第 VI 章、第 VII 章)

第 22 回 コーディング演習 19 (第 VIII 章、第 IX 章、第 X 章)

第 23 回 コーディング演習 20 (第 X I 章、第 X II 章、第 X III 章)

第 24 回 コーディング演習 21 (第 X IV 章、第 X VII 章、第 X VIII 章)

第 25 回 コーディング演習 22 (第 XX I 章、第 II 章)

第 26 回 コーディング演習 23 (第 X V 章、第 X VI 章)

第 27 回 コーディング演習 24 (第 X IX 章、第 X X 章)

第 28 回 コーディング演習 25 (原死因コーディング)

第 29 回 コーディング演習 26 (主要病態の選択、全体の補足)

第 30 回 コーディング演習 27 (全体の補足)